

上越・五智国分寺

手弁当で山門修復

上越市民に「五智さん」の愛称で親しまれている同市の指定文化財で老朽化が進む五智国分寺の山門を、同市北本町二の塗装業小島清介さん（70）らが手弁当で修復した。全国の寺院の修復事例を研究。三年半の時間と数百万円を掛けて生まれ変わらせた。小島さんは「感無量」と満足そうだ。



修復した山門の説明をする小島さん。「思った以上の出来です」＝上越市の五智国分寺

業装塗
小島さん

本業の合間 3年半

業者から助言 独自の塗料で

修復された山門は、天害があった柱には害虫駆除を施した。

柱の塗装は奈良・薬師寺回廊の修繕にかかわった業者にアドバイスを請い、にかわと紅殻を混ぜ合わせたものを使用。落ち着いた朱色に仕上げ、オリジナルの塗料で覆った。

子どもたちから国分寺を遊び場にしていた小島さん。訪れるたびに朽ちていく山門を見て、心が痛んだ。「山門は国分寺の玄関口。かつての威容を復活させたい」。二〇〇五年一月、高橋考深住職（75）に修復を申し出た。高橋住職も快諾。市との調整を経て同年春ごろから、小島さんの会社の従業員らの協力を得て作業を始めた。

土台や羽目板はすべて県産杉に交換。虫食い被

国分寺の山号「安國山」と書かれた正面の額は、岩絵の具を使って色落ちを防いだ。

本業の合間を縫っての作業だけに、「一年程度」と見込んだ当初の予定は大幅にずれ込んだが「良い物ができた」と振り返る。

今ではほとんど見られない「五智瓦」を使った屋根部分も劣化が進んでいるが、費用の算段がつかず、泣く泣く一応の修復の区切りとした。

高橋住職は「多くの観光客が訪れるだけにありがたい」と感謝。小島さんは「お金を集めて屋根も必ず直します」と話していた。